

広島大学学術情報リポジトリ

Hiroshima University Institutional Repository

Title	鏡の間 : めくらといざり
Author(s)	児童の言語生態研究会,
Citation	児童の言語生態研究 , 1 : 52 - 53
Issue Date	1968-05-05
DOI	
Self DOI	
URL	http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00045027
Right	
Relation	



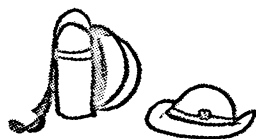
があると思うのは筆者一人ではあるまい。「業物」などを、「よく技術の施された刀」などと言ってもよからうけれども、心象の迫まり方の異なりを認めないわけにはいかない。

ことばの神秘性の復活を語りたいのではない。

しかし言語生活の合理化が、人間生活に見識と目標を生みつけるとは思われない。ことわざは忘れられ、いろはかるたの何枚が頭に思い浮かべられるであろう。学校国語の中に、ことわざ・いろはがるたを採用し、暗誦せよと言っているのではない。だが、これらが、言語教育の重要な役割を担っていたことはまちがいない。あるいは往來物が寺子屋教科書の名を得て行くのは何を意味するのか。往來物の推移は、その權威が語る通り多岐多様の道を辿っている。書状・文案いずれにせよ、これがより実益的な現実生活への適応を目的とすると見るのは近視眼的に過ぎる。それは手紙を書くという言語活動の一方面の用に供するためというより前に、それに吸引させられる心象の階段を見いだしていなければ、その場その時の特殊な事柄で満たされたものが、教科書的位置を得て行く道筋が見つかからない。言い換えれば、とりとめない日常生活の用件を記されたものの中に、見識と目標のための一目標として発見される言葉遣いに誘われるものがあつたであらうということである。

伝統は日常性の中に在るはずである。日常と伝統とは対立しないし分離もしない。日常性を把えさせるものは、伝統に何らかの答を得たそれが果

■ 鏡 の 間 ■



◆ ねらい ◆

三才前後になると、口がとでも達者になって、日常会話では事欠かないほどだと思ひのことと存じます。ところが、おそろく、今日の学習をなさってみると、また新しい問題をお感じになるだろうと思ひます。と申しますのも、ふだん日常会話では、その場の雰囲気から、ことばの一つ一つの意味はよくわかつていなくても、大よその見当をつけて理解することが多いのです。ですから、一語一語に何か特定の意味を明瞭に特たせなければならぬとか、また持たされたものとして聞かねばならぬことになると、まだまだこの年令では苦しいのです。これを、われわれは、「ことばから概念へ」の段階として注意しています。

しかし、日常会話でもことばの一語一語の意味概念が明瞭にでき上がっていないことも

めくら と いざり

このコーナーは、読者の投稿も歓迎しながら、毎号、子どもたちの言語生活のただけ露呈しやすい、そしてなおかつ、子どもたちが興味をそえられる百利あつて一害のない実験を掲載して行きたいと思ひます。担当の子どもたちや、お家のお子様にも御利用下さい。

大よその見当がついてこの人はこういうことを言おうとしているのだということがわかっていくことは、大切なことなのです。ですから、この遊びをやった後、一つ一つの単語の意味を教えるのが目的ではありません。ただ、いわゆる抽象語と呼ばれることばについて学習する機会を作つてやる必要があると思ひます。この必要であると思ひます。この必要は、抽象語にぶつかると、わからなくてたずねたり、勝手に想像したり悩んだり、とんちんかんな理解をしたりするのです。

こどもにとって、こんなことばはむづかしくて、わずらわしいものなのでしょうが、また同時に、これは便利だといふことを考えさせたいものです。

◆ 準備 ◆

これは二人で行ないます。一人がめくら、今一人がいざりというわけです。めくら

目は見えないが、歩くことはできる。いざりは歩くことはできないが目は見える。この二人のちがつた不具者が協力して物をするためには、完全な言語伝達授受ができていなくてはなりません。そこでめくらがいざりを背負い、いざりの指示によって、めくらは進行、その他の行動を決めます。床につけて道をつくりましょう。またボール箱、踏み台などで、障害物にしたり、それを山に見立てたり、すべり台を外して、橋に見立てたりもできます。橋ができれば、その下は当然川です。指示するいざりが上手に物を言わないと、めくらは橋を踏み外して、川の中を歩いてしまふというふうになるわけですね。川は、綱やひもなんかを見立てます。ですから気の利いた子などは、河原におり立って、ボンと川を一またぎするような場面もありまし

たすのである。言葉は使われると言いつつ言葉の跳梁に、軽うじて抵抗するかのとき言語生活の合理化に調子を合わせた子ども不在の授業をするよりも、一見、形式主義的に思われる言葉遣いを気付かうことの方が、少なくともその子どもを育てている本来の態度にちがいないと思うのである。(玉川大学助教授)

◆ 編集後記 ◆

☆正直言って苦しかった。いつの間にか、部屋にあった石油ストーブも見えなくなっている。机代わりになっている炬燵檯が、毎年の例だとことしの冬までどこかへしまわれないかならないのに、まだこれを使っている。もちろん、もう火はいっていない。夏炬冬扇も編集者にとっては無用どころか重用される。そんなこと思えるようになったのも、この仕事が一段落した証拠にちがいない。一日という刻みが二十四時間区切りであることがうらめしいと思つたことさえあった。

☆編集者だけではなく、執筆者も現場の期末激務の中を何度も何度も原稿を推敲して下さった。でも、現場とこんどの仕事とは別の次元で考えることはしなかった。また、互いにそれを自戒し確認し合ひながら進んだつもりであった。国語教師の腕前を誇る雑誌なら他に読めばいい。われわれのいう現場は子どもの場所である。子どもが発見された場所における調査であり研究でありたかつた。もし、この小冊子が世に注目されることがあるとするならば、そのことに由来するものであつてほしい。

☆われわれ同人は、特異な学問に専念し、特別な研鑽や修練を積んだわけではない。ただ、梁塵秘抄のそれではないが、遊びをせむとや生れけむ、戯れせむとや生れけむ。遊ぶ子どもの声聞けば、我が身さへこそ揺るがれる。子を思う集まりであると言いたい。そして、我が身を揺るがす子どもの声を、丹念に、また仔細に検討したかったのである。

☆編集者、それは祈りのようでもあり、まぼろしのようなもあつた。(T)

よう。

◆ やり方 ◆

廊下、教室の床もしくは畳の上に、適当に道川、山、橋などを見立てて下さい。(この場合、はつきりと、子どもと約束を取り交わしておくこと)障害物を作つて下さい。(これはよけて通らねばならぬように、綱をはるとします)

その他、川を渡るために、船に見立てられるようなものを川のそばにおくとか、工夫して下さい。

二人一組になつて一人はめくら、一人はいざりになります。めくらは約束によつて目をつぶればよいのですが、目かくしのため手拭いを準備して下さい。子どもは、扮装好きなので。三才前後の幼児同志が、めくらといざりになるのは無理と思われます。めくらになるのは、調査者もしくは、父兄・先生・小学校以上の兄弟姉妹が適当でしょう。

◆ 注意すべきこと ◆

1. ことばと項目

○「約束」とか「見立て」がうまくできるかどうか。
○左、右、真すぐ、曲がる、くぐる、渡る、またぐ、とぶ、進め、止まれ、もどれ等のことばが出て、また理解できているかどうか。

以上の語がすらすらと出ないのがふつうです。ダメ、そっちじゃないこつち、喜んで興奮してくると、こんなことばばかり乱発します。こういうことばではわからないことを理解させる必要があるのです。

めくらになつていざりをおんぶする人は、いざり(こども)の言う通りやつてみて下さい。もし言う通りすれば、壁なり、戸にぶつかつて進めないとかわかつていても、「真すぐ」と言つたら、どこまでも真すぐ歩いてやるようにするのです。そうしてうまく相手にわかるように言わねばならないのだということを考えさせるのです。

(調査項目例)

下記の適当なものに○印を付けて下さい。

1. 約束や見立の理解について(特に遊び始めについて)
(イ)すぐわかつた (ロ)わかりよかつたとはいえない
(ハ)わからなかつた

2. 命令者(いざり)と行動者(めくら)との関係が

(イ)はつきりわかつていた (ロ)わかつていても、実際活動中にはよくわすれていた
(ハ)わかつていたとは言えない

3. 下のことばでいざりが使用したのはどれか、○印をつけて下さい。

右、左、前、後、真すぐ、もどる、曲がる、くぐる、止まる、進む、とぶ、渡る、またぐ、歩く、引き返す、まわる
(ただし、命令形その他で言っている時も、関係ある語に○印をつけて下さい)

4. 上のことばを、めくらが理解していると思われた語は、△を付けてください。
子どもがめくらの場合、いざりの命令を聞きわけてその通り行動できていたものをえらべという事です。
5. 全体的なこの遊びについての子どもに興味度
(イ)大変よくんだ (ロ)ふつう (ハ)よこばなかつた
被調査者年齢

才 月 男 女
被調査者は「めくら」になつた。その場合の「いざり」の被調査者との関係は
父、母、兄、姉、先生、友人その年令

昭和四三年四月二〇日印刷
昭和四三年五月五日発行
児童の言語生態研究 一
二八〇円／発行所・児童の言語生態研究会／東京都町田市玉川学園六ノ一
玉川大学教育学科研究室付
／振替東京五九一〇五／印刷所・幸和印刷株式会社
東京都新宿区弁天町一